

# Future World

# 第15号



## 今週、第4回進路希望調査を実施します！

先週は、2学期中間テストと9月の実力テストの偏差値の個票を配付し、受験における現在の自分の位置が明確になってきたことと思います。今週の15日(金)より第4回進路希望調査を実施します。例年この調査で、私立高校、専修学校の受験校をほぼ決定し、その結果に基づき、募集要項や願書、推薦書などを高校から取り寄せます。いよいよ進路も現実味を帯びてきました。今一度、志望校について真剣に考えてみましょう。

## 必読 私立人気の本当の理由 必読 特別進学と一般コース

昨年から就学支援金の大幅な拡充により、私立高校における人気が高まっています。公立高校との経済的負担の差も相当、縮まってきたからです。とは言え、昨年度は北中開校以来初めて、私立への進学者が公立高校への進学者を上回り、長久手中学校、南中学校に続き、本校にも私立志向の波が到来したといえます。

では、就学支援金の大幅拡充以外に、何が私立志向を増幅させているのか。それは、大学の定員厳格化です。

これまでの大学入試は、入学定員充足率(入学定員に対する入学者数の割合)を1.2倍までに抑えれば私学助成金が交付されていたのですが、この基準が大規模大学で、平成16年度は1.17倍、17年度は1.14倍、18年度は1.1倍と年々厳しくなっています。

基準を超えると助成金は全額カットとなるため、各大学は基準内に収めるように合格者数を抑えているよう

です。定員1万人の大学で言えば、今までは1万2000人の学生を合格させることができましたが、2018年度から1万1000人までに減ったこととなります。つまり、今までであれば合格していたはずの1000人の学生が、不合格になってしまったということになります。

今年行われた2020年度入試は、難関大を避けて手堅く合格を狙う「安全志向」が見られました。

定員厳格化の影響で大幅難化した南山大・名城大などの影響は中堅大学だけにとどまらず、さらに広範囲の大学に広がっていることが分かります。滑り止めで受験したつもりがそうならないことになります。

つまり、この大学入試の定員厳格化により、系列大学や指定校枠を多くもつ私立高校に、3年後を見据えて進学を希望する生徒が増えてきたということです。自力で大学合格を勝ち取るのがかなり難しくなったため、内部推薦や指定校推薦で、進学の優位性が急激に高まっているのです。

10月も中旬を迎え、いよいよ私立高校の受験校を決めていかなければいけない時期になります。私立高校には、様々な学科やコースがあるのですが、それぞれの特性を知らずに受験し進学すると、あとで後悔することがあります。

受験生で特に安易に考えがちなのが、「特進コース」と「一般進学コース」です。コース選択時に、「少しでも学力の高いコースに」「特進コースに入れば、一般進学よりも学力の高い大学に進学できる」という思いから、特進コースにチャレンジする人が例年多いです。もちろんその名の通り、大学進学を目指して、7~8時間授業により徹底的に学力を付けさせるため勉強します。(塾通いは不要と言われます)では、一般コースよりも学力の高い大学、人気のある大学に進学できるのかというと、一概にそうであるとは言えません。それは、一般コースには、指定校推薦の枠が用意されているからです。

特別進学コースは、生徒にとにかく学力を付けさせて、自力で(一般受験で)大学合格を狙わせます。つまり、特別進学コースに推薦枠を設けられてはいない学校は意外と多いのです。左に前述したとおり、大学の定員厳格化によって、大学受験が一層、厳しくなっている中、内部推薦や指定校推薦がある一般コースの成績優秀者(評定平均が高い)は、「推薦枠」を滑り止めに使い、希望大学にチャレンジすることもできます。

3年後の大学進学を考えた場合、どちらのコースがよいのかは人それぞれですが、コースの特性をきちんと調べた上での進学をお願いしたいです。きちんと情報を調べて受験することが、将来、後悔することのない最大の予防策だと思います。